


くらしナビ  ライフスタイル

「融通きく」保育ママ人気

子どもと 家族の大国 フランスは今



2

フランス北部のエーヌ県クルイ村。保育ママのイングリッド・シエランスキさん(48)は毎朝、質素な石造りの2階建ての自宅で子どもたちを迎える。この日来たのはエミリーちゃん(1)と、兄のロアン君(5)だ。

●両親の要望聞いて

シエランスキさんは17年前、会計事務所の秘書を辞めて保育ママに転身。1〜5歳の5人を日替わりで、朝早い日は午前7時から、夜遅い日は午後8時まで預かる。保育中に子どもたちの様子をショートメールに書いたり、写真を撮って両親に送ったり。週に2回は他の保育ママと一緒に、子どもたちを児童館や図書館に連れて行く。

「両親の要望を聞きながら、子どもたちそれぞれに合わせて手作りの保育ができるのが保育ママの長所です」と、シエランスキさんは語る。ロアン君きょうだいのお母、

薬品販売業のオレリー・バナレンさん(31)は、ロアン君を出産した時に保育所に申し込んだが空きがなく、知人から紹介されたシエランスキさんに預けることを決めた。「最初は知らない人に子どもを預ける不安はあった。でも今は、子どもが病気の時にすぐに迎えに行かなければならない保育所よりも、時間の融通がきく保育ママを倍ぐらいお勧めします」

日本は保育所などの「施設型保育」が中心で、約83万人の0〜2歳児が認可保育所を利用する一方、保育ママを利用する子は7000人に満たない。だがフランスでは、2歳までの子の18%が保育ママを利用し、保育所の10%を大きく上回っている。

フランス全国家族協会連合(UNAF)のローラン・クレブノ事務局長は「経済危機の中で、建設、運営費の高い保育所より、保育ママは自治体の財政負担が小さく、高度な資格を必要としない」と指摘する。

国も保育ママ制度を積極的に支援している。保育ママを利用する親に補助金を支給し、利用者が保育ママに支払う給与の大半をカバーする。政府は6月、保育ママによる乳幼児の受け入れを、2017年までに10万人分増やす計画も発表した。

●低賃金に課題も

もっとも、保育ママに対する社会の理解や評価は十分とはいえない。仏東部プーリアンブレスの保育ママで、保育ママ労組の委員を務めるセリーヌ・トルシュールさん(33)は「保育ママを『家で何もせずに子どもと過ごす人』と誤っている人もいる」と嘆く。

仏東部リヨンでは11年、保育ママに不信感を持った両親が息子のぬいぐるみに録音機を隠し、職務怠慢を告発する事件が発生。事件を担当したベアトリス・ベルトラン弁護士が保育ママ宅への監視カメラ設置などを提案し、議論を呼んだ。

低賃金などの課題もある。保育ママの給与は利用者との交渉で決まるが、日給が一定額を超えると、利用者が補助金を受けられなくなる規定があり、給与は抑えられがち。

シエランスキさんの時給は子ども1人につき手取りで3円(約420円)。長時間労働でようやく月額最低賃金(1211円)約15万8000円を上回る13000円(約18万3000円)の収入を得



フランス北部、エーヌ県クルイ村の自宅で預かった子どもに本を読み聞かせる保育ママのイングリッド・シエランスキさん—宮川裕章撮影